

小見山理可. 生きがいとしての農業の展開: 高知市朝倉地区の市民農園を中心に (2004 年度地理科学学会春季学術大会発表要旨). 地理科学, 2004, 59.3: 227-228.

【本稿の目的】

農作物の栽培には生きがいとしても行われており、市民農園の地理学的研究が現在進められている。しかし、その地理学的研究の数はとても少ない。そうしたことから、この研究では市民農園がどの程度普及しており、そこからどのような農作物が栽培されており、利用者の生きがいにあっているかを目的としている。

【高知市の朝倉市の事例から】

高知市のある市民農園の場合、利用者によってそれに参加した経験の長さや関わり方は異なる。しかし、すべての利用者が農作物の栽培と農村での人間関係を楽しんでいることが分かった。また農作物を通して会話や同作業を協働することによって地域の人々との交流が深まることもある。こうした市民農園は農作物を作る喜び、収穫する喜び、人と交流する喜びがあり、生きがいを感じられる場所となっていることがわかった。